

主催者（里山シンポジウム実行委員会）代表挨拶

里山シンポジウム実行委員会代表 金親博榮



まず初めに主催者の代表ということで里山シンポジウム実行委員会を代表し、ご挨拶させていただきます。本日は、第3回里山シンポジウムの全体会に、たくさんの方々にお越し頂きましてありがとうございます。

この里山シンポジウムは、千葉県が主催する里山フェスティバルの行事の一つとして位置づけられており、2003年5月18日に木更津市で開催された第54回全国植樹祭を記念し、その翌年から毎年おこなわれてきました。植樹祭の時、千葉県は全国に先がけて「里山条例」を施行し、その日、5月18日を「里山の日」と決めました。その翌年の2004年5月15日に、市民ボランティア団体が県等の支援を頂き、第1回の里山シンポジウムを木更津市で開きました。昨年は第2回として我孫子市でおこない、今年の第3回はこの八千代市の絶大なる御支援のもと、本日の全体会を開催することができました。八千代市の方々には、公私に亘りまして力を尽くして頂き、本当にありがとうございました。心から御礼を申し上げます。

このシンポジウムは里山と関係する様々な分野を分科会と位置づけており、それぞれに里山の保全・活用についての独自の活動もおこなってきました。第1回のシンポジウムのときには11の分科会が誕生しましたが、昨年の第2回では14分科会、そして今年は18の分科会が誕生し様々な活動をおこなってきました。まだ進行中の分科会もございますが、今日、全体会を開くことになりました。

今回のテーマ「里山とゴミ」は、ちょっとショッキングなタイトルになりました。産廃銀座と言われる千葉県ですが、汚名とも言える千葉のゴミの問題と里山に焦点を当て、今年のシンポジウムを開催してきたわけです。今回の分科会は3月から8月にかけて、県下7市において、様々な独自企画のシンポジウムや勉強会を開催するというもので、各分科会とも並はずれた大きなエネルギーが注がれました。各関係者の皆様は本当にご苦労様です。ところで、里山への関心は近年、益々大きくなってきたと感じてはいますが、まだまだ一部の市民の趣味的な場と受けとられてしまうこともあります。荒れた山林や、耕すことを放棄された田んぼや畑、捨てられたゴミの山は、人の心の荒廃を示すような、そんな気持ちでみておられる方も多いのではないのでしょうか。このままでは、水も食べ物も空気も子孫に残すには値しない、そして身体や心も汚されてしまう、そんな状況に立ち至ってしまうのではないかという危機感さえ覚えます。捨てられたゴミの山は、私たちの身体、そして心までも蝕むのではないか、そんな発想から今回のテーマを「里山とゴミ」にさせていただきました。

ここで実は、一週間前の出来事なのですが、少し個人的な話をさせていただきます。私は千葉市若葉区の谷当町という所に住んでおります。里山のど真ん中といった所なのですが、そこに5月6日の夜6時頃、私が山の見回りに行ったところ、まさにゴミの投棄中、作業中の車を発見してしまったのです。そこで当然、仕方なく110番に電話してナンバーを伝え安心していたところ、チンピラ風情の人が跳びかかってきました。そして、私の車のガラスを叩き割られてしまいまして、そしてナンバーが剥ぎ取れる程激しくぶつかってき、私のと一緒に見回っていた人も怪我をしまいました。林にゴミを捨てられることはよくあるのですが、今回のように暴力をふるい怪我をさせられたのは初めてで、危険を顧みずちょっと深追いしすぎたのかなと思う一方、こういった行為はぜひ取り締まらないと千葉県の山は守れないなと思っています。この件では、車のナンバーを警察の方に通報してありますけれど、みなさんもこういうことがあるかとは思いますが、ナンバーだけでは特定されず、ナンバーもトラックも盗難されたものとのことでした。

少し脱線しましたが、これから広く県民、国民の理解と支持を得て、この里山シンポジウムの活動ができるだけ里山の保全や、また私たちの生活の向上のために役立てられればと考えています。ぜひこの里山活動が一過性のもので終わらないように、農業や林業、市民、専門家、行政などみんなで力をあわせて、世界に誇る千葉の宝、里山を復活させ、また育てていこうではありませんか。

以上、里山シンポジウム実行委員会代表として挨拶させていただきました。どうもありがとうございました。